

2019年度事業報告

2019年度 事業報告 目次

I. 総括	4
II. 実施事業	5
1. 鳥類等の野生生物保護及び自然保護の精神を育成するための普及啓発活動	5
1-1 バードピア推進事業	5
1-2 愛鳥週間関連行事	5
1-3 愛鳥懇話会	6
1-4 デジターセンター等施設における解説・管理	6
1-5 巣箱架設行事・活動	7
1-6 野鳥保護に関するキャンペーン	7
1-7 講師依頼	8
1-8 イベントによる普及啓発活動	9
1-9 普及啓発を目的とした商品の販売促進	9
2. 鳥類等の野生生物保護に関わる調査研究事業	9
2-1 自主調査および保護研究事業	9
2-2 受託・請負事業	11
2-3 鳥類保護の国際協力に関する事業	13
3. 鳥類等の野生生物保護に関わる個人及び団体による功労の表彰に関する事業	13
3-1 令和元年度愛鳥週間野生生物保護功労者表彰	13
3-2 第54回全国野生生物保護実績発表大会	13
4. 組織及び連盟運営の拡充に関する活動及び事業	14
4-1 機関誌「私たちの自然」	14
4-2 支部会議等の開催	14
4-3 支部報	15
4-4 ホームページ・フェイスブック・連盟案内	15
4-5 寄付を獲得するための活動	15

I. 総括

2019年度も、前年度までと同様、本部収支のさらなる改善がなされるよう公益事業活動の維持及び発展のための基盤づくりと環境整備を目指した活動を継続した。

第73回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」をはじめとする愛鳥週間関連事業は、環境省他関係各機関の協力の下で実施され、当連盟の普及啓発活動の中核となっている。「全国野鳥保護のつどい」については、常陸宮殿下ご臨席のもと、記念式典、愛鳥パーティー等が東京都下新宿区において滞りなく行われた。また、「第54回全国野生生物保護実績発表大会」については、固定化しつつある応募校の拡大を図るための努力を行うとともに、前年に引き続き、個人・企業・団体に協賛を依頼した。

調査研究事業においては、コアジサシ研究センターの事業として、国内におけるコアジサシの渡りルート解明に関する調査・研究を継続するとともに、オーストラリアやニュージーランドで調査を行った。また、国際協力事業としてリトアニア共和国におけるコアジサシの渡りルート解明に関する調査を継続した。他の国際協力事業としては、2016年度から開始したフィリピン共和国における猛禽類の渡りのルート解明や猛禽類保護に資する植樹などの協力を継続するとともに、新たにネパール連邦民主共和国において、鳥類の調査や保全に関する技術指導や人材育成の支援協力活動を開始した。さらに、自主事業として2005年度から行っている外来種ワカケホンセイインコに関する調査研究を継続して行った。

バードピア事業については、ホームページ、イベント、ロコミ、野鳥関連商品等を通して、登録者を増やす努力をするとともに、団体登録者のホームページでの紹介や毎号の機関誌にバードピアコーナーを設けるなどの取り組みを新たに始めた。

機関誌「私たちの自然」については、編集会議を定期的に行き、紙面の充実に努めた。

公益財団法人として、本部と各支部間及び支部相互間の協力・連携を図ることを目指して、2017年度から開始した支部会議を継続した。

従来から行ってきた使用済み切手や中古双眼鏡の募集に加え、シマフクロウやコアジサシなどに対する寄付を積極的に呼びかけるとともに、さらなる会員獲得に向けた取り組みなど、安定的な公益事業の基盤づくりに努めた。

II. 実施事業

1. 鳥類等の野生生物保護及び自然保護の精神を育成するための普及啓発活動

1-1 バードピア推進事業

新規登録を進める一方、今までの事業を見直し、新たな活動も始めた。

(1) 団体登録者へのサービス

既存の登録者の中で宣伝を希望する団体を紹介するため、ホームページに新しいコーナーを設けた。

(2) 登録者増の努力

ホームページ、イベント、野鳥関連商品等を通してバードピアを普及し登録者を増やす努力をした。また、カフェや介護施設にバードピアを普及させるため、店や施設が望むことは何かを考え、実際に訪ねてバードピアの説明を行い、会員登録のお願いに努めた。

2019年度末の登録者数は企業52社、個人195人。

(3) 新しい巣箱の開発と調査

都市部に合った巣箱の開発を目的として、試作品を製作し、合計2地点8か所に巣箱を架け、従来の巣箱との比較調査を2か年計画で始めた。

(4) 機関誌のバードピアコーナー

機関誌各号に1ページずつ「バードピアを広げよう！」というコーナーを設け、読者にバードピアの存在に注目してもらうとともに、登録者を募集するよう努めた。

1-2 愛鳥週間関連事業(愛鳥週間 2019年5月10日～5月16日)

(1) 第73回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」

5月12日(日)に京王プラザホテル(東京都新宿区)をメイン会場に、環境省・日本鳥類保護連盟共催、文部科学省・林野庁の後援により、常陸宮殿下のご臨席の下に開催した。記念式典では、野生生物保護功労者の表彰が行われ、その後、「第53回全国野生生物保護実績発表大会」で林野庁長官賞を受賞した福生市立福生第五小学校の生徒11名による活動発表が行われた。

式典終了後、会場を移し、約90名の方々を迎え、愛鳥パーティーが行われた。

なお、関連行事として、愛鳥パーティー終了後、東京都大田区にある、関東地方では有数のコアジサシの営巣地となっている、東京都下水道局森ヶ崎

水再生センターに場所を移し、野生生物保護功労者表彰の受賞者の方を中心にフィールドワークを行った。

(2) 令和2年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール

全国の小・中・高校生を対象に、環境省・文部科学省・林野庁の後援を得て実施した。3,387校から47,309点の応募があり、この中から各都道府県より推薦された406点を審査し、令和2年度愛鳥週間用ポスターの原画となる総裁賞のほか、環境大臣賞などの入賞作品を選定した。また、支部は、都道府県知事推薦作品の選定などに協力した。

総裁賞には静岡県静岡雙葉中学校2年生 小林日愛里(こばやし・ひまり)さんの作品が選定された。シマフクロウが描かれた存在感のある愛鳥週間にふさわしい作品であり、その原画をもとに令和2年度愛鳥週間用ポスターを制作し、各都道府県に配布した。

(3) 愛鳥週間関連各種普及啓発事業

5月14日(火)から19日(日)の間、新宿御苑インフォメーションセンターのアートギャラリーにおいて、「野鳥を知るバードカービング展 1/2の野鳥たち」を共催した。バードカービングの展示と合わせ、令和元年度愛鳥週間用ポスター原画コンクールの総裁賞、その他受賞者作品のパネルによる紹介と作者コメントの紹介を行った(期間中来場者2,933名)。

支部においては、自然観察会、探鳥会、愛鳥週間用ポスター展、愛鳥写真展及び表彰など、愛鳥思想の普及啓発行事を開催した。

1-3 愛鳥懇話会

12月12日(木)に日比谷松本楼において、常陸宮殿下のご臨席を賜り、約70名の参加により、愛鳥懇話会を開催した。なお、懇話会に先立ち、令和2年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール総裁賞の授与式が行われ、静岡県静岡雙葉中学校2年の小林日愛里(こばやし・ひまり)さんに賞状と記念品が贈られた。続いて、第1回シマフクロウステッカーコンテスト最優秀賞の授与式が行われ、岐阜県の桐谷衣以奈(きりたに・いいな)さんに賞状が贈られた。

1-4 ビジターセンター等施設における解説・管理

国が管理する釧路湿原国立公園温根内ビジターセンター及び塘路湖エコミュージアムセンターにおいて解説・管理を請負い、施設の管理及び一般利用者・学校向けの普及啓発活動を実施した。また、各施設周辺の情報発信を目的で、「月刊 温根内通信」と「月刊 やちまなこ」を発行した。なお、この活動は釧路支部が行った。

1-5 巣箱架設行事・活動

以下の5ヵ所で合計9回、巣箱架設事業を行った。児童向けプログラムでは巣箱作り、巣箱架け、巣箱調査を行った。

(1) 憲政記念館の巣箱架け

鳥類保護議員懇話会(代表：野田 毅 衆議院議員)との共催により、同懇話会に所属する国会議員、環境省のほか、千代田区の小学生生徒の参加、協力を得て、国会議事堂前の憲政記念館北庭園において、毎年実施している巣箱の架設行事を3月11日(木)に実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となった。しかし、巣箱を利用する鳥種への営巣場所の提供は必要であり、毎年9月に実施する参加小学校による巣箱調査も普及啓発の観点から実施したいため、大学生ボランティアとともに事前に児童が製作した巣箱27個の架設を行った。[参加者15名]

(2) 麴町小学校・お茶の水小学校(講師依頼)

9月21日(土)巣箱調査[参加者60名]・2月15日(土)巣箱作り[参加者75名]

(3) 新宿御苑

11月17日(日)巣箱調査[参加者65名]・12月15日(日)巣箱作り/巣箱架け[参加者51名]

(4) 所沢航空発祥記念館・所沢航空記念公園管理事務所(講師依頼)

9月23日(月・祝)巣箱調査[参加者50名]・11月23日(土)巣箱作り/巣箱架け[参加者56名]

(5) まちの保育園(講師依頼)

11月8日(金)巣箱調査[参加者22名]・1月21日(火)巣箱作り/巣箱架け[参加者22名]

1-6 野鳥保護に関するキャンペーン

(1) 「ヒナを拾わないで!!」キャンペーン

4月1日から7月31日までを期間とし、(公財)日本鳥類保護連盟、(公財)日本野鳥の会及びNPO法人野生動物救護獣医師協会の3団体の共催、環境省の後援により実施した。都道府県及び企業・団体の協賛、協力を得て、普及啓発ポスターを3団体で合計110,000枚を作成し、自治体、学校、公共施設、動物病院などに配布した。また、メディア取材に積極的に対応し、野鳥のヒナを安易に拾わないよう広く呼びかけを行った。

(2) 全国一斉テグス（釣り糸）ひろい2019

5月1日から10月31日までを期間として8府県、14地点において、本部・支部、会員及び専門委員のほか、関係団体並びに一般の参加を得て、海岸、河川及び湖沼などに放置されたテグスなどの回収を実施した。

回収されたテグスの総量：17,934.0m(1g=13m)

テグス以外：釣り針、ルアー、おもり、ウキ、金具類、釣り具類包装紙、釣り竿、天秤、タモ等

本部においては、5月19日(日)、神奈川県片瀬東浜海岸から江ノ島まで職員・評議員計8名により約1,300mの距離で実施した。なお、2019年度はテグスひろいイベント用のTシャツを作成し、PRを兼ねて全員で着用した。

1-7 講師依頼

以下の7カ所から講師依頼を受け、それぞれのテーマに沿って講習等を行った。

(1) NHK文化センター青山教室

「はじめてのバードウォッチング」

10月3日(木)オリエンテーション(於：NHK文化センター青山教室)[参加者6名]、10月10日(木)新宿御苑[参加者13名]、11月14日(木)洗足池[参加者11名]、12月19日(木)浮間公園[参加者13名]、1月9日(木)舎人公園[参加者11名]、2月20日(木)多摩川河川敷[参加者9名]、3月12日(木)小石川植物園[参加者11名]

(2) 所沢航空発祥記念館・所沢航空記念公園管理事務所

「カラフルな鳥の羽根を作ろう！」

2月9日(日)所沢航空記念公園[参加者23名]

(3) 杉並区教育委員会

1. 「サイエンスワークショップ 知ってる？ 鳥の不思議!!」

6月9日(日)セッション杉並[参加者50名]

2. 「中学生フューチャーサイエンスクラブ・鳥の不思議な世界へようこそ！」

7月31日(水)杉並区立杉並第四小学校[参加者22名]

(4) 杉並区立郷土博物館分館

ワークショップ「意外と知らない!? 鳥のヒミツ」

10月26日(土)杉並区立郷土博物館分館[参加者20名]

(5) 新宿御苑

新宿御苑パークボランティア研修会
9月5日(木)新宿御苑[参加者25名]

(6) 松戸市

令和元年度第2回松戸市地域環境調査研修会
10月7日(月)京葉ガスF 松戸ビル[参加者26名]

(7) 公益財団法人堀内浩庵会

「愛鳥のつどい」
5月14日(火)山中湖村文学の森

1-8 イベントによる普及啓発活動

以下のとおり、当連盟の活動紹介、普及啓発用商品の販売などを行った。

(1) ジャパンバードフェスティバル2019

11月2日(土)～3日(日)千葉県我孫子市手賀沼周辺[来場者数40,000人]

(2) 第1回 Yambaru Bird Fair (YBF) 2019

10月27日(日)沖縄県国頭村の道の駅(ゆいゆい国頭) [来場者数500名]

1-9 普及啓発を目的とした商品の販売促進

野鳥カレンダー、野鳥シート、バードピンズ及び新型の音声再生ペン(G-Speak)などの商品の販売促進に努め、ニーズに応えたデザインの変更、仕様変更を進めた。また、ペットフード業界との協力でバードピア事業を視野に入れた商品の企画提案を行い、野鳥のエサ、バードフィーダーの商品開発及び製品化・販売計画を進めた。

2. 鳥類等の野生生物保護に関わる調査研究事業

2-1 自主調査および保護研究事業

(1) コアジサシの渡りルート解明に関する調査

コアジサシ研究センターとして以下の調査研究事業を行った。

a. 国内

絶滅危惧種コアジサシの渡りルートや中継地、越冬地を把握して保護に役立てることを目的として、2013年度からジオロケーター(渡りルートを把握するための機器)をコアジサシに装着、2015年度からはより詳細なデータを得るためにGPSロガーを装着している。GPSロガーは2016年度までに国内で86

羽に装着したが、装着方法に問題があり回収できなかつたため、2017年度以降は装着方法を改善し、2019年度までに48羽に装着した。また、越冬地を調査するためにオーストラリアのブリスベーンとニュージーランドのオークランドに行き、越冬個体の探索とともにコアジサシにとって良好で持続的な環境かどうかを調査した。本調査研究活動は、三井物産環境基金より助成を受けて行った。

b. 海外

ヨーロッパにおけるコアジサシの渡りルートや中継地、越冬地を把握して、種レベルでの保全及び国内亜種と比較することによってコアジサシの生態をより詳しく把握し、保護に役立てることを目的として、リトアニア共和国において、2016年度までにジオロケーターを22羽に装着し、2017年度には8羽からジオロケーターを回収できた。これによって渡りルートの概要は把握できたが、より詳細なデータを得るために、2019年度までにGPSロガーを30羽に装着した。

なお、本調査研究活動は、イオン環境財団より助成を受けて行った。

(2) シマフクロウ保護のための活動

国のシマフクロウ保護増殖事業の一環として、巣箱の設置、営巣確認調査、標識調査、給餌等を請負って進める一方、国の予算で不足する部分を寄付金等で補いながら、調査研究及び保護活動を進めた。

(3) ワカケホンセイインコの調査研究

外来種であるワカケホンセイインコは現在ねぐらが分散しており、そのねぐらも安定せず移動を繰り返している。ねぐらが安定しないと分布が広がり、農業被害へつながる可能性があるため、ねぐらの把握につとめ、さらには現状を把握するためにねぐらにおけるカウント調査を12月に実施した。

また、9月に東京都帝京科学大学で開催された日本鳥学会の大会でポスター発表をした。

2018年度から2019年度にかけて取材協力していたNHK番組『ダーウィンが来た』で9月8日「東京に出没！緑のインコ軍団」として放映された。

(4) 専門委員活動

鳥類保護に関心や経験を有し、指導力、実践力のある方や、鳥類を主とする観察会、または鳥類調査についての知識と経験を有する方に委嘱しており、機関誌などへの情報提供及び地域の愛鳥思想普及啓発活動を呼び掛けた。

(5) ガン・カモ類生息調査、ツバメ調査、ハクチョウ調査、鳥獣生息調査

神奈川県支部、石川県支部としてツバメ調査に関わった。富山県支部とし

てハクチョウ一斉調査を行った。岡山県支部として鳥獣生息調査を行った。

(6) 愛鳥モデル校の指導等

石川県支部として愛鳥モデル校の指導・育成に関わった。

2-2 受託・請負事業

環境省等国の機関、地方公共団体及び企業から、シマフクロウ保護増殖事業をはじめとした鳥類調査の業務・事業を受託・請負し、実施した。

(1) シマフクロウ保護増殖事業(再掲)

国が策定した「シマフクロウ保護増殖事業計画」に基づき、シマフクロウを絶滅の危機から救うため、環境省、林野庁、標茶町の受託又は請負事業として、主に釧路支部において、給餌池への活魚の給餌、巣箱の設置、雛への標識調査、監視・生息状況調査などを実施した。

(2) 地方公共団体及び企業からの鳥類調査請負

サントリー天然水の森の鳥類調査(サントリーホールディングス株式会社)、国指定天然記念物の十三崖のチョウゲンボウ繁殖地の調査(長野県中野市)など、鳥類に関する事業を請負い、実施した。

2019年度受託・請負事業一覧

区分	事業名	担当	発注者
I 受託事業	1 平成31年度全国野鳥保護のつどい記念式典等実施業務	本部	環境省
	2 令和元年度日中トキ生息保護協力業務	本部	環境省
	3 平成31年度シマフクロウ保護増殖事業（生息状況調査・給餌・巣箱設置等業務）	釧路	環境省 釧路自然環境事務所
	4 平成31年度シマフクロウ保護増殖事業（管内生息地確立及び拡大業務）	釧路	環境省 北海道地方環境事務所
	5 平成31年温根内ビジターセンター解説・管理業務	釧路	環境省 釧路自然環境事務所
	6 平成31年度塘路湖エコミュージアムセンター解説・管理業務	釧路	環境省 釧路自然環境事務所
	7 令和元年度希少野生動植物種保護管理事業（シマフクロウ）	釧路	林野庁 根釧東部森林管理署
	8 平成31年度希少野生動植物種保護管理事業（シマフクロウ）	釧路	林野庁 根釧西部森林管理署
	9 平成31年度 国庫補助事業 中野市十三崖のチョウゲンボウ 繁殖地保全整備事業 モニタリング調査業務委託	本部	長野県中野市
II 請負事業	1 サントリー天然水の森 鳥類調査	本部	サントリーホールディングス（株）
	2 国の事業に関わる鳥類調査	本部	アジア航測（株）
	3 2019年度釧路湿原国立公園自然ふれあい活動業務	釧路	釧路湿原国立公園連絡協議会
	4 平成31年度釧路湿原保全巡視業務	釧路	標茶町
	5 フジトレイル・マウントフジコース周辺鳥類生息状況調査	本部	NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部
	6 「サイエンスワークショップ」、「中学生フューチャーサイエンスクラブ」の業務委託	本部	杉並区社会教育センター
	7 ワークショップの業務委託	本部	杉並区立郷土博物館分館

2-3 鳥類保護の国際協力に関する事業

(1) フィリピンにおける国際協力事業

フィリピン共和国(以下、フィリピン)において、NGO がボランティアで実施しているサシバ等の保護活動に協力するため、2016年度から中古双眼鏡の募集を実施しており、2019年度も中古双眼鏡を集め寄贈した。また、渡りを行う猛禽類や希少なフィリピン特産の猛禽類の生息環境や餌環境を育んでいくため、フィリピンのミンダナオ島 2 か所において植樹活動に協力した。なお、2017年度からは経団連自然保護基金より助成を受けて行っている。

(2) ネパールにおける国際協力事業

ネパール連邦民主共和国(以下、ネパール)において、現地の鳥学会が自分たちで資金を集めて保護・研究活動を継続していけるよう、アジア猛禽類ネットワークと協同で、エコツアーのための基盤づくり、知識・技術、必要機材の提供、普及啓発用のリーフレット及びステッカーの作成、配布などを行った。

なお、2019年度は地球環境基金より助成を受けて行った。

(3) 日中トキ協力事業

「日中共同トキ保護計画」に基づき、環境省の受託業務として、中国における野生のトキ個体群の保護・回復、生息環境の保護・整備、飼育下個体群の育成及び野生復帰を効果的に進めるとともに、日本の佐渡における野生復帰の取組みの参考とするために必要な調査、協力等の業務を目的とし、日中トキ生息保護協力に関する関連情報の収集を行った。また、3月に佐渡トキ保護センターより、トキ9羽を中国北京へ輸送する関連業務を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となった。

3. 鳥類等の野生生物保護に関わる個人及び団体による功労の表彰に関する事業

3-1 令和元年度愛鳥週間野生生物保護功労者表彰

5月12日(日)に京王プラザホテルで開催された第73回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」において、シマフクロウの保護に尽力した山本純郎(やまもと・すみお)さんが総裁賞を受賞したほか環境大臣賞などの野生生物保護功労者の表彰が行われた。

3-2 第54回全国野生生物保護実績発表大会

11月25日(月)に環境省講堂において、環境省との共催、文部科学省・林野

庁の後援により開催した。

都道府県知事から推薦された小・中・高校・団体の児童・生徒による野生生物保護の活動実績の中から、事前審査で選定された10件の活動の発表を審査し、優秀校に対して環境大臣賞などの表彰を行った。

2019年度においても、昨年度同様、固定化しつつある応募校の拡大を図るための努力を行うとともに、個人・企業から協賛金を集め、参加者の旅費支援に充当した。

4. 組織及び連盟運営の拡充に関する活動及び事業

4-1 機関誌「私たちの自然」

発行回数：機関誌を6回発行した。(2019年5・6月号 No. 622～2020年3・4月号 No. 627)※隔月発行。

発行部数：1,900～2,600部(各号変動あり)

配布先：会員、愛鳥モデル校、自然保護団体、都道府県自然環境担当部局および教育委員会等。また、広報活動の一環として各種行事(ジャパンバードフェスティバルおよび連盟後援催事等)において無料配布した。

2019年度においても、編集会議を行い、誌面の充実を図るために協議し、特に以下のことに留意し誌面づくりを行った。

- ・「特集」においては、テーマに対し、いろいろな角度から現在の状況・問題点等を多面的に読者に紹介するように努めた。
- ・わかりやすい誌面づくり(中学生が読んでも理解できる程度の内容)を心掛けた。
- ・寄付を募るためにも、当連盟の活動を分かりやすく読者に紹介し、読者の理解を得るように努めた。

4-2 支部会議等の開催

10月11日(金)東京都杉並区において、本部と支部間及び支部相互間の協力・連携をさらに図っていくことを目指して、支部会議を開催した。釧路支部、茨城県支部、神奈川県支部、山梨県支部、富山県支部、石川県支部、福井県支部、連盟京都、広島県支部が参加し、情報共有、今後の取り組みについての意見交換などを行った。

また、11月17日(日)～18日(月)、福井県若狭町において、北陸ブロック・京都支部交流会が行われた。

4-3 支部報

富山県、石川県、山梨県、茨城県、神奈川県、連盟京都の各支部が、支部報「らいちょう」、「朱鷺」、「うぐいす」、「かわせみ便り」、「フレンドリー」「うぐいす」をそれぞれ発行し、各地域の愛鳥思想普及啓発を推進した。

4-4 ホームページ・フェイスブック・連盟案内

(1) ホームページ

連盟の活動をアピールするために、団体概要、入会案内、寄付、活動内容、商品について最新の情報を提供できるよう努めた。

(2) フェイスブック

連盟の事業について、できるだけ早く簡潔に短い文で情報を投稿し、詳しい内容はホームページに掲載するようにした。コメントをもらったり返信したりすることでコミュニケーションを図り、双方向の交流ができるように努めた。

(3) 連盟案内

ホームページの内容のエッセンスを紙媒体にし、連盟を知ってもらうためのツールとして活用した。

4-5 寄付を獲得するための活動

(1) シマフクロウ保護のためのステッカーデザインコンテストなど

寄付者に配布するシマフクロウステッカーを制作した。より多くの人にシマフクロウ保護の必要性を考えてもらうため、ステッカーのデザインはコンテスト形式で公募した。最優秀賞をデザインとしてステッカーを制作し、寄付をいただいた方に配布した。これらの取り組みなどにより61,500円の寄付が集まった。

(2) その他

普及啓発活動及び調査研究事業を円滑に行うため、使用済み切手の募集、巣箱事業等の各事業に対する寄付など、個人や企業を対象として中古双眼鏡(再掲)等物品を含む寄付を募った。